

## A-1 「総合的な学習の時間」の基本的な考え方と全体像

### (1) 本校がめざす「生きる力」

本校がめざす「生きる力」は、つぎの3つの柱を土台として成り立つものと考えている。

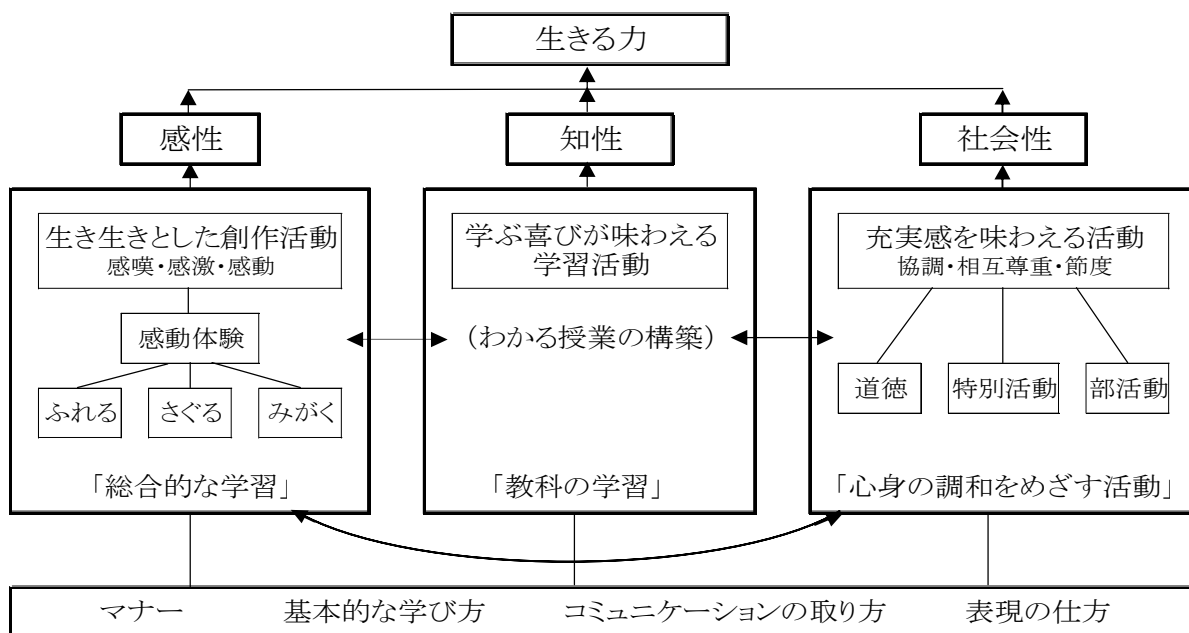
その1つが「知性」であり、すべての活動の基礎・基本をなすものである。おもに教科学習において育まれる力である。

2つめは「社会性」である。他と協調したり、他を尊重する力は、いろいろな体験を通して育まれる力である。道徳教育、あるいは学校行事、部活動などが、これを育む上での大きな活動と考える。

3つめは、「感性」である。本校では、感性教育を「総合的な学習の時間」の中において取り組み、本校独自のスタイルを確立してきた。

「生きる力」は、これらの3つの柱を基礎として、互いに補完しあい、さまざまな活動を通して総合的な力として発揮されるものである。

「総合的な学習の時間」の基本的な考え方と全体像



### (2) 教科教育との関連の視点

《必修教科》 基礎・基本を通して教科固有の知の形成を図る学習活動、全ての生徒に対して共通の基礎的、基本的な内容を確実に身につける。

《選択教科》 教科の補足的、発展的、応用的な知の形成を図る学習活動

《総合的な学習の時間》

- ・ 教科目標の枠をこえ、各教科で身につけた知識、技能を相互関連的、総合的に働くことをめざした学習活動（文部科学省）
- ・ 感動体験や培った感性、経験、自己表現力を、各教科での学習や今後の生活に生かすことをめざし、教科学習と現実の社会や生活を結びつけることができる学習活動（本校）

